

# 「自立活動」学習指導案

指導者 小 田 原 舞

**日 時** 平成 24 年 12 月 1 日 (土) 第 1 校時 (10 : 00 ~ 10 : 50)  
**年 組** 中学校第 3 学年 3 組 (男子 4 名, 女子 4 名 計 8 名)  
**場 所** 中学校 3 学年 3 組教室  
**題 材** 「オフィス東雲～私たちはチームの一員！」

## 題材について

本学級は、中・軽度の知的障害特別支援学級であり、生徒 8 名 (男子 4 名, 女子 4 名) で構成されている。1 学年時、主体的な行動よりもいわゆる指示待ちといわれる行動や、指摘されることに対する過度な反応や言い訳の反応、難しいと思ったことや初めてすることに対しての諦めや無気力な反応など、自信のなさの裏返しから表れていると推測できる姿が多く見られた。これらの姿は、過去の失敗体験の積み重ねや、肯定的な評価をされることの少なさに起因するものと考え、自立活動の時間において、ワークシステム (課題の内容, 数量や置き場所, 取り組む順序などを、見て分かりやすいように示したり機能的に配置したりした作業空間のこと) を用いた学習を行ってきた。取り組む課題の中には、将来の職業生活をイメージした課題も取り入れ、「課題をする＝仕事をする」という設定で授業を展開した。また、課題の遂行にあたっては、いつ・どの課題を・どれくらい行うのか各自にプランニングさせることも試みた。その結果、「一人でも課題に取り組み、その課題を完了させることができた」「自分で計画を立て、課題に取り組み、完了させることができた」という成功体験の実感と達成感は、自信の回復につながっていった。一方、分からないことを聞くこと、どのような姿勢で課題に取り組んだか自ら気づくこと、プランを事前に確認したり確かめたりすることが難しいという実態や、プランを遂行するにあたって、理想の自分 (計画通りにできていると思っている自分) と現実の自分 (実際には計画通りにできていない自分) を的確に把握することが難しいという実態が明らかになった。

2 学年時には、「自己を的確に把握できる力の向上」「本来の自分の姿を認識し、それを自分で認めていくことができる力」の向上を目指し、ワークシステムを用いた学習に、自己評価の場面を取り入れた。1 つの課題終了ごとに、課題遂行時の間違い、やり直しの有無、分からないことに対する自分の対応について仕事課題チェック表に記入することによって振り返りをさせた。自己を正しく認知していく過程の中では、必ず自分の不得意な部分 (難しい部分・できていない部分・できない部分) を自ら認めざるを得ない場面に遭遇することとなる。しかしながら、仕事課題の継続によって回復した自信や、仕事であるという意識づけによる責任感の高まりに下支えされ、自尊感情の著しい低下を起さずに自己評価力を向上させることにつながった。2 年間の取り組みによって、個々の自信の回復や自己を把握する力の高まりという成果が認められたが、分からないことやできないことが自分にはあるということに気づくことができて、それを誰かに聞くなど、周りの人に働きかけて自ら解決していこうとする行動の表れになかなか繋がらないという課題が残った。

そこで、本題材では、教室内を仮想の職場と見做し、オフィスの一員としてチームを作り、自分たちの力で 1 校時 50 分を運営していくという学習活動を設定した。生徒たちの将来を考えた時、社会の中で何らかの集団の一員として生活している姿が想像される。これまでのように、一人で黙々と仕事課題をこなしていくだけではなく、自分のやっていることが他者と繋がっているという状況の下、まず、自分の役割を果たすことの大切さと、それがチームの中でも重要なことであることに気づかせたいと考えた。そして、分からないことや難しいことが起こった時、それを解決しようと自らが動き出さなければ、他

のチーム員の仕事に繋げていくことができないことから、自らがその解決のために行動を起こすことの大切さを学べると考えた。また、チームとして仕事を成し遂げていくという学習活動には、自分本位の行動は認められない場合が多いこと、リーダーは、まとめ役ではあるが、自分ばかりを主張するようでは、チームはまとまらないこと、チーム員は、自分が仕事課題を遂行し次の担当者へ受け渡さなければならないという責任を負うこと、仕事課題遂行中に問題が発生すれば、リーダーやチーム員に適切に伝え、解決していかなければならないことなどのポイントが含まれる。そのため、個々の生徒の持つ課題をもとに目標を設定することが可能である。

指導にあたっては、仕事課題の遂行において、うまくいかなかったり、どうしたらよいか分からなかったりするような場면을意図的に設定する。それにより、解決にむけて自らが行動を起こすことを促したい。パターン化されたものから外れるような、想定外のことが起きた時にも、自分たちでやり遂げられ、乗り越えられたという達成感により、自己肯定感はより高められ、集団の生活の場でのさらなる自信や責任感につながっていくものと考え。リーダー役の生徒には、チーム員一人ひとりがどのようにチーム内で仕事をしてきたか、本日の仕事課題報告書に記入させ、チーム全体の状況を把握できるようにし、自分の工夫によりチームをより良くしていくという責任感を持たせるようにしたい。チーム員役の生徒には、仕事課題チェック表に記入させることにより、自分の仕事をきちんと完成させ、次の担当者に確実に受け渡すことを意識づけることで、チームの一員としての自覚と責任を持たせるようにしたい。

## 指導目標

1. まわりの状況を把握し、柔軟な対応ができるようにする。(主にリーダーの役割時)
2. 自分と他者とのつながりを考えて行動できるようにする。(主にチーム員の役割時)
3. 突発的なこと、パターンから外れることが起きても解決にむけて取り組むようにする。

## 指導計画

- |                   |                          |             |
|-------------------|--------------------------|-------------|
| 1. 第1期オフィス東雲の設置準備 | 新システムの確認とチーム編成・・・・・・・・・・ | 1時間         |
| 2. 第1期オフィス東雲開設    | 2チーム編成でそれぞれ運営・・・・・・・・・・  | 4時間         |
| 3. 第2期オフィス東雲      | リーダー交代し2チーム編成でそれぞれ運営・・   | 4時間         |
| 4. 第3期オフィス東雲      | リーダー交代し2チーム編成でそれぞれ運営・・   | 4時間         |
|                   |                          | (本時はその3時間目) |
| 5. 第4期オフィス東雲      | リーダー交代し2チーム編成でそれぞれ運営・・   | 4時間         |

## 本時の目標

リーダー：チームの仕事内容を把握し、チーム員の状況に応じた対応ができる。

チーム員：自分の役割を把握し、正確に仕事を終了することができる。

目 標 行 動	支援の必要な生徒
話し方や態度に気をつけて話をするができる。	1・3・4・5・7
分からないことは質問することができる。	2・3・6・8
集中して話を聞くことができる。	1・2
相手や状況に応じて、適切な対応を取ることができる。	5・7
課題終了時、作業量や完成度の確認作業ができる。	4・6・8

## **「学びのつながり」の視点**

チームの一員として学習に取り組み、自分たちでやり遂げた経験や感情の共有体験によって高められた自尊感情が土台となり、課題遂行中に想定外のことが起きたとしても、臨機応変に対応しようとする姿・解決しようとする姿につながるのか、実践を通して検証する。

## **準備物**

スケジュールカレンダー（本日举行う仕事課題が指示されたカードがあらかじめセットしてある）、  
各課題の必要物品（カード台紙、型抜き、シール、クリアポケット、仕分け箱、  
ビーズ、テグス、プラスチックカップ、ジッパー袋）、  
仕事課題報告書、仕事課題チェック表

## 学習の展開

学習活動 (□) と支援 (●)		指導上の留意点(◆評価)											
生徒5・7 (リーダー)	生徒1・2・3・4・6・8 (チーム員)	座席表											
1. オフィス東雲始業準備 ●リーダー役生徒との打ち合わせをする。		※チーム①が教室前方、チーム②が後方で行う。											
□チーム員に、 ・仕事課題チェック表 ・スケジュールカレンダー を配布し、記入の確認をする。	□本時の学習 (仕事) 内容を確認し、見通しを持つ。 ・スケジュールカレンダーを確認し、仕事課題チェック表に記入する。												
2. 仕事課題の開始 ●リーダー役生徒からの相談に対応する。													
<p style="text-align: center;">本日の仕事課題分担</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">《チーム A》</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">《チーム B》</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ミニカード作り</td> <td style="text-align: center;">プレスレット作り</td> </tr> <tr> <td>台紙の透かしカット</td> <td>： 工程 1 (チーム員) : ビーズの大小分別</td> </tr> <tr> <td>シール貼り・仕分け</td> <td>： 工程 2 (チーム員) : 必要個数を数える</td> </tr> <tr> <td>5枚組セット・袋詰め</td> <td>： 工程 3 (チーム員) : テグスにビーズを通す</td> </tr> <tr> <td>仕上がり確認・報告</td> <td>： 工程 4 (リーダー) : 仕上がり確認・報告</td> </tr> </table>			《チーム A》	《チーム B》	ミニカード作り	プレスレット作り	台紙の透かしカット	： 工程 1 (チーム員) : ビーズの大小分別	シール貼り・仕分け	： 工程 2 (チーム員) : 必要個数を数える	5枚組セット・袋詰め	： 工程 3 (チーム員) : テグスにビーズを通す	仕上がり確認・報告
《チーム A》	《チーム B》												
ミニカード作り	プレスレット作り												
台紙の透かしカット	： 工程 1 (チーム員) : ビーズの大小分別												
シール貼り・仕分け	： 工程 2 (チーム員) : 必要個数を数える												
5枚組セット・袋詰め	： 工程 3 (チーム員) : テグスにビーズを通す												
仕上がり確認・報告	： 工程 4 (リーダー) : 仕上がり確認・報告												
□仕事課題の開始を告げ、仕事を開始する。 ・各チーム員の仕事内容の再確認 ・時間設定 ・完成チェック ・最終提出準備 ●リーダーとしての言動に課題が現れた場合には、進捗状況の報告を通して自己の対応を振り返ることができるようにする	・丁寧で正確な仕事 ・課題終了時の確認 ・次の担当者への受け渡し ・リーダーへの報告 ・やり直しへの対応 ●学習活動が止まってしまった生徒に対して、どのようにすべきか促す。	○指導者による指示やことば掛けが必要な場合は、直接的な指示はせず、ヒントを提示し、自らの気づきを促す。  ◆リーダー： チーム員に対する対応の仕方に配慮が見られたか。  ◆チーム員： 課題を正確に完了し、次の担当者へ受け渡すことができたか。											
3. まどめの時間 ●各チームのリーダーからの報告を促す。													
□仕事課題報告書に記入する。 ●チームとして良かった点・うまくいった点・課題点に着目できるようにする。 □仕事課題報告書を提出し、終了を告げる。	□仕事課題チェック表にまどめを記入する。  □終了・解散												

### 参考文献

- 近藤卓『自尊感情と共有体験の心理学 理論・測定・実践』金子書房, 2010.
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編著、『特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック』. ジアース教育新社. 2011.
- マーガレット・E・キングシアーズ, ステファニー・L・カーペンター. 『ステップ式で考えるセルフ・マネジメントの指導』. 学苑社. 2005.